

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1175300282		
法人名	(株)寿エンタープライズ		
事業所名	グループホーム北本		
所在地	埼玉県北本市緑3-16		
自己評価作成日	令和 6年 2月 14日	評価結果市町村受理日	令和 6年 5月 1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社プログレ総合研究所		
所在地	埼玉県さいたま市大宮区大門町3-88 逸見ビル1階		
訪問調査日	令和 6年 3月 21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・入居者様の能力を最大限に活かし、一人ひとりが活躍できる環境づくりに努めている。笑顔が溢れる日々を過ごしていただけるよう取り組んでいる ・同敷地にデイサービスと居宅介護支援事業所があり、サービスの連携が図りやすい。 ・コロナが第5類に移行後、面会制限や外出制限を廃止し、いつでも会える状態にしている。 ・同系列内理学療法士等のセラピストに毎週体の状態を評価し、課題を見出し、リハビリに取り組んでいる。 ・離職が少なく、経歴が長い職員も多く、アットホームな雰囲気がある

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は、利用者の意思を尊重し、支援を行うことを大切にしている。勤続年数の長い職員が多く家庭的な雰囲気の中、全体会議では、利用者にと豊かで快適な生活環境の提供をするためにと、活発な意見や話し合いをおこなっている。2か月毎に業務カンファレンスをする他、特に事故が起きた時は、職員が入れ替わる3日間、情報共有をすると同時に話し合い、意見交換をして考える場になっている。地域との交流は良好で、町内会の清掃や集会場の掃除に参加し、メンバーの一人として受け入れて貰っている。運営推進会議には自治会長や民生委員が参加し、災害時、避難場所として集会場を使用しても良いと言ってもらったり、震災時の経験から防災についてのアドバイスを参考に備蓄品の見直しをおこなった。今後も地域交流を深めたいと考えている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに ○ 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所の入り口・職員休憩室に理念を掲示。 毎朝のミーティング時理念を読み上げている	事業所理念を4つ掲げている。その中で特に大切に思うことは、利用者の意思を尊重することである。個々がその人らしく生活するために、快適な生活環境の提供ができるよう職員と共有し支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の清掃活動に職員が2回参加 地域のお祭りに入居者ととも2回参加 運営推進会議に自治会長、家族代表と通じ、地域行事へ参加できている	町内会に加入し回覧板や町内の年間行事を確認し、日常的に交流をしている。清掃活動や集会所の掃除に参加した。お祭りには利用者と一緒に参加しゲームをしたり、かき氷を食べる等、利用者に喜ばれた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じて、地域の方へグループホームの理解を広められるように現在進行中		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	5月以降運営推進会議を集合形式で開催し、自治会長、包括センター、家族代表、民生委員に参加頂き、施設の状況報告と意見交換をしている	昨年5月より対面式の運営推進会議を開催している。役所、地域包括支援センター、自治会長、民生委員、家族の参加があった。能登震災の話を参考に、更に災害対策の必要性を感じて見直しをし、点検をおこなった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議で市役所職員に参加頂いている。年3回の地域事業所の連絡会、9月に市役所での作品展と関りがある。	市からの研修や地域の連絡協議会に参加し、他事業所の実状を聞いたり、事業所からもコロナ感染がないことを伝える等、情報交換をしている。市からもアドバイスをもらい、支援の向上に活かしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年4回身体拘束適正化検討委員会を実施。 年2回の勉強会を実施。職員の認識を深める。今年度も身体拘束は一度もなし。	年4回、研修をおこなっている。法人の資料を基に現状の確認と話し合いをしている。スピーチロックに関しては、利用者の危険な行動に対し、とっさに静止する言葉が出ることも拘束に繋がることを理解し、身体拘束をしない支援に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を年4回開催。勉強会も2回行い、職員の共通理解に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修も機会が減少している。今後、職員の勉強会、スキルアップが課題。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の終結時には入居者様、ご家族に十分な説明を行い、不安点や疑問点がないか確認、納得いくまで説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族代表の方に運営推進会議へご出席いただき意見・要望をうかがっている。家族会を12月に開催し、意見交換を行い、要望を反映できた	今年度は家族会を1回開催した。会では利用者の生活を中心に多くの質問や希望等が出て有意義な会となった。感謝の言葉ももらった。定期的に発送するお便りやアンケートでも意見を聞く機会を設けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	少なくとも年2回の個人面談を実施。職場の改善点や個人的な要望等を聞く機会としている。	年2回の個人面談の他、定期的に行う会議で職員の意見を聞く機会を設けている。「誰でも同じ仕事ができるようにしたい」と意見があり、表の見直しを行うことで他フロアの業務も把握できるようになった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年3回、人事考課表を実施。 職員の自己評価を踏まえて上司が面接を行い悩みや要望を聞いている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職場内において勉強会を実施し、能力向上に努めた。 資格取得支援制度があり、今年度2名が外部の研修で資格を得るため、現在通いながら勤務している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市役所主催の連絡部会が年3回。そこで知り合った他グループホーム長と連絡を取り、相談している。また、グループ内に6か所グループホームがあり、そこでも相談できる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	実調や入居前の面談でご本人の要望を聞いている。 ご本人の様子を見、お話を聞きながら安心していただけるよう声掛けなどを努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家庭での様子や心配、希望を伺いながら不安を減らし可能な範囲内で希望に添えるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要なことを把握し、困っていることの解消の為に様々なサービスを念頭においている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	整容や身の回りの整理整頓、食後の食器拭きなど、出来る限りご利用者様に行っていただく。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族とはお便りや電話など、まめに連絡を取っている。 訪問しやすい環境を整え、相談に乗りながら共に支え合えるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今までの習慣や好きなこと、人とかかわりがまったく変わってしまう事がない様、支援している。 家族の面会や外出等、制限を設けずに支援している	利用者の習慣や好きなことを継続できるよう支援に努めている。「何かしたいことはありませんか」と聞くと、歌の好きな利用者から「カラオケに行きたい」と返事があり希望を叶えた。家族の面会は自由である。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関わりはなるべく邪魔せず、見守りに重点をおいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も必要に応じて、家族や本人の望む形でフォローを行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に家族や本人のこだわりや習慣をアセスメントする用紙を使い、本人家族の思いを職員が共通理解できるよう努めている	日常の会話を大切にしている。例えば入浴時にシャワーと湯舟どちらが良いか、就寝時に電気を点けるか消すか等、その都度確認をしている。表現が難しい時は表情や昔の情報から把握に努めている。	利用者個々の意思の尊重を大切に支援をおこなっているが、更に利用者に寄り添い個別性のある生活の提供ができるよう期待する。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の実態調査にて、生活歴や現在の過ごし方を本人や家族、サービス提供者に聞き取りアセスメントしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の生活リズムを把握し、出来る事とできなくなってきた事などはカンファレンス等で情報交換している。ストレスを感じている方には、できる限り話を傾聴する様努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファレンスを行い、ケアでの気付きや意見交換をして現状にあったケアプランの作成に努めている。	入居時は3ヵ月で見直し、通常は6ヵ月毎に見直しをしている。課題が出た時や身体状況の変化時は都度ケアカンファレンスを行い、現状に即した介護計画を作成している。計画に沿った支援に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケアでの気付きや情報を個別ノートに記入し、全スタッフが周知出来る様共有している。 ケアの実践後は評価し、見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人から要望や変化があった際には、こまめに家族に連絡し、それぞれにあったサービスを提供するよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍のため、ボランティアの方と4年空白があり、今までのボランティアはすべて白紙状態。現在1団体のみ。今後増やしていきたい		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の希望に沿った医療機関と連携し、かかりつけ医以外でも今まで通っていた専門医にも通えるよう提供している	2か所の訪問診療医があり利用者全員が利用している。24時間対応で、緊急時の指示を受けることができる。その他の訪問は看護、歯科、リハビリがある。皮膚科や整形等は家族対応とし、受診をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週訪問看護師に状態を見ていただいている。気になる事は相談し、指示を頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先へ介護サマリーを提供し、入院先でも本人が困らないよう努めている。ホームで急変した場合の対応などは事前に往診医と話し合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	毎年、家族の意向をうかがい、往診医や看護師と連携を取りながら本人、家族の望むように過ごせるよう支援している	終末期や重度化の指針は契約時に説明し、2～3ヵ月後に同意書をもらうようにしている。その後毎年延命について家族の意向を聞いている。利用者・家族の意向に沿い、看取り時は医師、看護師、職員がチームとして支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	防災訓練時に消防職員に心肺蘇生法を研修。委員会でも継続して、続けて行けるよう検討中		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防隊員に来ていただき、夜間を想定した避難訓練や消火訓練をDSのスタッフと合同で行っている。	年2回、昼夜を想定し避難訓練をおこなっている。消防署からは避難方法やAEDの使い方を教わった。訓練の他避難経路を事業所内に掲示し職員に周知している。備蓄品は3日分ある。BCPの作成は完成している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として尊敬し、プライバシーや自尊心を損なうことがないよう日頃より声がけなどに注意し接している。	個人情報や事務所内鍵付き書庫に保管し、日々の記録はタブレット入力で管理をしている。排泄、入浴時では羞恥心の配慮をして支援を行い、利用者の呼び名は「さん」付けて呼ぶようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	飲み物やおやつを好みの物にしたり、担当がアセスメントしてご本人の希望を聞いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	普段の会話の中から、本人の要望や思いを汲み取るよう努めている。 その人らしい生活が送れるよう、出来る範囲で希望に沿っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服の選択や髪型・メイクなど、満足が行く身嗜みが出来る様支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	可能な範囲で職員とともに食事の準備や片づけを行っている。テーブル拭き、食器拭き、調理や盛り付け個人個人で出来ることをおこなっていただいている。	利用者は味噌汁の具選び、切る、盛り付け、片付け等、できることに参加している。準備が始まると「今日は何だろうね」「これは魚、肉？」と会話が始まる。食事形態や飲み込みに合わせ介助をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お粥、刻み食、ペースト食の対応している。 水分摂取量が少ない方は、水分補給が常に出来る様工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケア(歯磨き)を実施している。 訪問歯科を利用し、口腔内の清潔に努めている。 必要な場合は介助を行う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンや習慣を生かして声掛けを実施。排泄サインを見逃さないよう注意深く見守っている。	排泄チェック表を基に個々のリズムを把握し、失敗がないよう、少し早めの声かけで、トイレで排泄できるように誘導をしている。排便コントロールの他、トイレで座ることが自立に向けた支援に繋がっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品(ヨーグルトや牛乳など)をおやつに取り入れている。 排便コントロールは、週に1回看護師と相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は基本的にマンツーマンで、羞恥心に配慮。その日の希望や体調、外出等も考慮し、スケジュールを汲んでいる。	基本は週2回、午後に入浴をしているが、それ以上の入浴、振替、変更も可能としている。入浴順はその日に利用者と職員で話し合い、利用者の希望に応じ、ゆっくり入浴ができるよう支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や体調を考慮している。好みを考慮している。室温や明るさ、テレビをつける等		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	それぞれの服薬一覧をスタッフの目の届く場所に提示して効能や副作用について把握できるようにしている。 症状の変化をNSやDrに都度報告し、指示を頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人的な趣味等を継続できるよう支援している。現在では、絵画、囲碁、調理。 入居者のレベルの差が大きくなっており、集団レクから個別のレクに移行中。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気のいい日はホーム前の公園へ散歩に出掛けたり庭で日向ぼっこをしている。 家族を含めた外出レクを来年は検討中	コロナ感染予防のため外出は控えているが、天気のいい日は近隣の雑木林や公園に散歩に行ったり、敷地内で日向ぼっこをしながらお茶を飲んでいる。今後レクリエーションで好きなお菓子を購入し、庭で食べながらお茶の時間を計画している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物の希望がある時はスタッフが代行したり、近所のお店で済むものであれば、一緒に買い物に行き、好きなものを本人に選んでいただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	基本的に、携帯電話の持ち込み、使用は制限なく使用できる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節にあった掲示物を制作したり、展示している。 整理整頓はもちろん、トイレの場所が分かりやすいようにプレートを表示している。	食堂は日当たり良く、カーテンを開け日差しはレースで調整をしている。食事時間はテレビを消し音楽を流している。塗り絵、体操、折り紙をしたり、好きな時代劇、演歌を観るなど思い思いに過ごし、居心地良く過ごせるよう工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	相撲観戦やニュースをご覧になることが好きな方はなるべくTVの近くの席にしたり、窓辺が好きな方はそのようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具の持ち込みや本人の思い出(写真や趣味など)をお持ちいただいている。 ベッドは介護用ベッドを利用しているが、寝具に関しては使い慣れたものを使っていたいでいる。	居室はテレビ、携帯、仏壇等、馴染みの物を配置している。室温は個々に合わせている。湿度は塗れたタオルを干し、掃除は一日おきに職員が掃除機と拭き掃除を行い、居心地よく過ごせるよう工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下の動線は常に確保しており、手すりも利用しながら歩行しやすい環境を整えている。 出来る事はご自分で行っていただき、職員は極力見守りに努める。		